文学部　人文学科　人文学（歴史学）、および、国際コース・人文学（歴史学）　カリキュラム・マップ

		1年前期	1年後期	2年前期	2年後期	3年前期	3年後期	4年前期	4年後期
＜共通＞	D.（他者を尊重する公平な姿勢）先行研究と自らの学説を批判的に討論し、自らの意見をより客観的視点から組み立て、他者の意見を尊重する、市民性のある公平な姿勢で論文を作成することができる。 C-2-1.（知識・理解の深化と統合）本コース6つのそれぞれの専門分野の内容に関する深い理解と、学問固有の思考方法、研究手法を獲得し、知識を有機的に総合し、論文を作成することができる。 C-2-2.（独創性）新たな視点から問題提起を行い、それを解決するための方法を提示しながら、論文を作成することができる。 B-3.（歴史学コース固有の課題）先行研究を批判的に読む中で自らの問題関心を鋭敏にし、史・資料を解読し史跡を調査することにより、自らの視角から、ある特定の地域と時代の社会像を復原できる。							卒業論文	
＜日本史学＞	C-1-1.（文献分析力）本コース6つのそれぞれの専門分野の基本文献を正確に解釈、分析することができる。 C-1-2.（研究手法）本コース6つのそれぞれの専門分野に固有の問題設定を理解し、必要な史資料や文献を収集できる。 C-1-3.（表現力）学問的な討論の場で、他者の意見を理解するとともに、自分の意見を明確に表現し、有効なコミュニケーションを取ることができる。			日本史学演習Ⅰ～Ⅳ（日本古代の文献資料について歴史学的に検討し、報告を行う授業）、日本史学演習Ⅴ～Ⅷ（日本中世の文献資料について歴史学的に検討し、報告を行う授業）、日本史学演習Ⅸ～Ⅻ（日本近世の文献資料について歴史学的に検討し、報告を行う授業）、日本史学演習ⅩⅢ～Ⅹ（日本近代の文献資料について歴史学的に検討し、報告を行う授業）、日本史学演習ⅩⅦ～ⅩⅩ（学外講師による、文献資料について歴史学的に検討し、報告を行う授業）、日本史学実習Ⅰ～Ⅳ（文献資料・出土文字資料等を用いた古文書学・資料論的素養を身につける授業）				
	B-2.（専門分野の知識と理解）本コース5つのそれぞれの専門分野の基礎知識、その領域に固有の問題設定や研究手法を身につけ、それらを説明できる。			日本史学講義Ⅰ～Ⅳ（日本古代を中心とした講義）、日本史学講義Ⅴ～ⅧⅠ（日本中世を中心とした講義）、日本史学講義Ⅸ～ⅫⅠ（日本近世を中心とした講義）、日本史学講義ⅩⅢ～Ⅹ（日本近代を中心とした講義）、日本史学講義ⅩⅦ～ⅩⅩ（学外講師による集中講義）				
	C-1-4.（外国語運用能力）外国語の運用能力を高め、自らの考えを表現できる。また、自らが所属する専門分野が扱わない外国語を学び、言語の多様なあり方を説明できる。			＜共通＞の漢文、ラテン語、英語、ドイツ語、フランス語、中国語、朝鮮語、アラビア語の中から3単位選択				
＜東洋史学＞	C-1-1.（文献分析力）本コース6つのそれぞれの専門分野の基本文献を正確に解釈、分析することができる。 C-1-2.（研究手法）本コース6つのそれぞれの専門分野に固有の問題設定を理解し、必要な史資料や文献を収集できる。 C-1-3.（表現力）学問的な討論の場で、他者の意見を理解するとともに、自分の意見を明確に表現し、有効なコミュニケーションを取ることができる。			東洋史学演習Ⅰ～Ⅷ（中国を中心としたアジア史の史料・研究文献講読）、東洋史学演習Ⅸ～Ⅻ（学外講師による中国を中心としたアジア史の史料・研究文献講読）				
	B-2.（専門分野の知識と理解）本コース5つのそれぞれの専門分野の基礎知識、その領域に固有の問題設定や研究手法を身につけ、それらを説明できる。			東洋史学講義Ⅰ～Ⅷ（中国を中心としたアジア史の講義）、東洋史講義Ⅸ～ⅫⅠ学外講師による中国を中心としたアジア史の講義）				
	C-1-4.（外国語運用能力）外国語の運用能力を高め、自らの考えを表現できる。また、自らが所属する専門分野が扱わない外国語を学び、言語の多様なあり方を説明できる。			＜共通＞の古典語・外国語の中から、英語1単位、中国語1単位を含みながら3単位選択				
＜朝鮮史学＞	C-1-1.（文献分析力）本コース6つのそれぞれの専門分野の基本文献を正確に解釈、分析することができる。 C-1-2.（研究手法）本コース6つのそれぞれの専門分野に固有の問題設定を理解し、必要な史資料や文献を収集できる。 C-1-3.（表現力）学問的な討論の場で、他者の意見を理解するとともに、自分の意見を明確に表現し、有効なコミュニケーションを取ることができる。			朝鮮史学講読Ⅰ～Ⅳ（朝鮮史研究法の基礎を学びつつ、日本語・外国語で書かれた研究文献の読解力を身につける授業）				
				朝鮮史学演習Ⅰ～Ⅳ（主として朝鮮前近代史の史料読解・調査分析を学生が実践する演習）、朝鮮史学演習Ⅴ～Ⅷ（主として朝鮮近現代史の史料読解・調査分析を学生が実践する演習）、朝鮮歴史文化論演習Ⅰ～Ⅵ（朝鮮の社会・文化上の諸テーマに関する演習）				
	B-2.（専門分野の知識と理解）本コース5つのそれぞれの専門分野の基礎知識、その領域に固有の問題設定や研究手法を身につけ、それらを説明できる。			朝鮮史学講義Ⅰ～Ⅳ（主として朝鮮前近代史に関する講義）、朝鮮史学講義Ⅴ～Ⅷ（主として朝鮮近現代史に関する講義）、朝鮮歴史文化論講義Ⅰ～Ⅵ（朝鮮の社会・文化上の諸テーマに関する講義）				
	C-1-4.（外国語運用能力）外国語の運用能力を高め、自らの考えを表現できる。また、自らが所属する専門分野が扱わない外国語を学び、言語の多様なあり方を説明できる。			＜共通＞の英語、ドイツ語、フランス語、中国語、朝鮮語の中から朝鮮語1単位以上を含みながら3単位選択				
＜考古学＞	C-1-1.（文献分析力）本コース6つのそれぞれの専門分野の基本文献を正確に解釈、分析することができる。 C-1-2.（研究手法）本コース6つのそれぞれの専門分野に固有の問題設定を理解し、必要な史資料や文献を収集できる。 C-1-3.（表現力）学問的な討論の場で、他者の意見を理解するとともに、自分の意見を明確に表現し、有効なコミュニケーションを取ることができる。			考古学演習Ⅰ～Ⅳ（東アジアの考古学的資料について検討し、報告を行う卒業論文作成に向けた授業）、考古学演習Ⅴ・Ⅶ（日本の遺跡出土の実物資料について観察・検討し、報告を行う授業）、考古学演習Ⅵ・Ⅷ（日本考古学の基本文献について検討し、報告を行う授業）、考古学実習Ⅰ～Ⅳ（遺跡の調査・出土遺物の整理・報告書作成に至るまでの一連の方法・技術を身につける授業）				
	B-2.（専門分野の知識と理解）本コース5つのそれぞれの専門分野の基礎知識、その領域に固有の問題設定や研究手法を身につけ、それらを説明できる。			考古学講義Ⅰ～Ⅳ（東アジアの先史・古代を中心とした講義）、考古学講義Ⅴ～Ⅷ（日本列島の先史・古代を中心とした講義）、考古学講義Ⅸ～ⅩⅠ（学内非常勤講師による講義）、考古学講義ⅩⅡ～ⅩⅥ（学外講師による集中講義）				
	C-1-4.（外国語運用能力）外国語の運用能力を高め、自らの考えを表現できる。また、自らが所属する専門分野が扱わない外国語を学び、言語の多様なあり方を説明できる。			＜共通＞の漢文、英語、ドイツ語、フランス語、中国語、朝鮮語の中から3単位選択				
＜西洋史学＞	C-1-1.（文献分析力）本コース6つのそれぞれの専門分野の基本文献を正確に解釈、分析することができる。 C-1-2.（研究手法）本コース6つのそれぞれの専門分野に固有の問題設定を理解し、必要な史資料や文献を収集できる。 C-1-3.（表現力）学問的な討論の場で、他者の意見を理解するとともに、自分の意見を明確に表現し、有効なコミュニケーションを取ることができる。			ヨーロッパ史学演習Ⅰ～Ⅳ（主として中世。文献資料について解読し、成果を報告）、ヨーロッパ史学演習Ⅴ～Ⅷ（主として近代）、ヨーロッパ史学演習Ⅸ～ⅫⅠ（主として現代）、ヨーロッパ史学演習ⅩⅢ～ⅩⅥ（主として英米史）				
	B-2.（専門分野の知識と理解）本コース5つのそれぞれの専門分野の基礎知識、その領域に固有の問題設定や研究手法を身につけ、それらを説明できる。			ヨーロッパ史学講義Ⅰ～Ⅳ（主として現代）、ヨーロッパ史学講義Ⅴ～Ⅵ（主として中世）、ヨーロッパ史学講義Ⅷ（主として近代）				
	C-1-4.（外国語運用能力）外国語の運用能力を高め、自らの考えを表現できる。また、自らが所属する専門分野が扱わない外国語を学び、言語の多様なあり方を説明できる。			＜共通＞のギリシア語、ラテン語、英語、ドイツ語、フランス語の中から3単位選択				
＜イスラム文明学＞	C-1-1.（文献分析力）本コース6つのそれぞれの専門分野の基本文献を正確に解釈、分析することができる。 C-1-2.（研究手法）本コース6つのそれぞれの専門分野に固有の問題設定を理解し、必要な史資料や文献を収集できる。 C-1-3.（表現力）学問的な討論の場で、他者の意見を理解するとともに、自分の意見を明確に表現し、有効なコミュニケーションを取ることができる。			イスラム文明学演習Ⅰ～Ⅳ（イスラム史研究法の基礎を学びつつ、日本語・外国語で書かれた研究文献の読解力を身につける授業）、イスラム文明学演習Ⅴ～Ⅷ（ペルシア語文献資料を読解し、史料操作の方法を学ぶ授業）、イスラム文明学演習Ⅸ～ⅫⅠ（アラビア語文献資料を読解し、史料操作の方法を学ぶ授業）、イスラム文明学演習ⅩⅢ～ⅩⅥ（トルコ語文献資料を読解し、史料操作の方法を学ぶ授業）				
	B-2.（専門分野の知識と理解）本コース5つのそれぞれの専門分野の基礎知識、その領域に固有の問題設定や研究手法を身につけ、それらを説明できる。			イスラム文明学講義Ⅰ～Ⅳ（主として近世・近代オスマン帝国史・トルコ史に関する講義）、イスラム文明学講義Ⅴ～Ⅷ（主として初期イスラム時代に関する講義）、イスラム文明学講義Ⅸ～ⅫⅠ（主としてイラン史に関する講義）、イスラム文明学講義ⅩⅢ～ⅩⅥ（主としてアラビア語文法に関する講義）				
	C-1-4.（外国語運用能力）外国語の運用能力を高め、自らの考えを表現できる。また、自らが所属する専門分野が扱わない外国語を学び、言語の多様なあり方を説明できる。			＜共通＞の漢文、ギリシア語、ラテン語、英語、ドイツ語、フランス語、アラビア語の中から3単位選択				
＜歴史学コース共通＞	B-3.（歴史学コース固有の課題）先行研究を批判的に読む中で自らの問題関心を鋭敏にし、史・資料を解読し史跡を調査することにより、自らの視角から、ある特定の地域と時代の社会像を復原できる。			史学概論				
＜国際コース共通＞	B-4.（国際コース固有の課題）英語により日本の人文学を学び、外国語による思考力を鍛え、日本社会や国際社会の諸問題を表現することができる。			国際コースの学生はInternational Humanities Ⅰ～Ⅹ（英語による日本学の授業）各2単位を8単位修得する。この8単位のうち4単位までは人文学課題探求演習Ⅰ～Ⅱに代えて修得することができる。また、国際コースの学生は専門80単位のうち40単位以上をF科目（外国語により実施される科目）またはF/J科目（授業の一部で外国語を用いて実施される科目）で修得する（F科目、F/J科目であるかどうかは各授業のシラバスに表示される）。卒業論文（10単位）は外国語で作成された場合、F科目とする。また、外国語文献資料や外国語による研究成果を幅広く参照して作成された卒業論文の単位は、所定の申請書を提出した上でF/J科目に認定されることがある。 International Humanities (Ⅰ～Ⅱ: Introduction to Japanese History, Ⅲ～Ⅳ: Introduction to Japanese Literature and Language, Ⅴ～Ⅵ: Introduction to Japanese Art and Visual Culture, Ⅶ～Ⅷ: Introduction to Japanese Religions and Philosophy, Ⅸ～Ⅹ: Analyzing International Scholarship on Japan) 人文学課題探求演習Ⅰ～Ⅱ（長期の留学、海外での活動を単位として認める授業）				
	B-2.（専門分野の知識と理解）本コース5つのそれぞれの専門分野の基礎知識、その領域に固有の問題設定や研究手法を身につけ、それらを説明できる。			博物館に関する科目、図書館に関する科目、地域福祉の比較社会学、コミュニティの構造、情報機器操作入門、西洋古典学講義Ⅰ～Ⅳ、ジャーナリズム論Ⅰ～Ⅱ、現代史入門Ⅰ～Ⅱ				
	B-1.（人文学の広範な知識と理解）人文学全般の多様な専門分野の基礎知識を身につけ、人文学固有の思考や方法を説明できる。	人文学基礎Ⅰ	人文学基礎Ⅱ	人文学 Ⅰ～Ⅳ				